

SSPC年次総会 5年連続で参加 視察報告 池田龍哉・池田工業社長

米国の残留塩と 湿式プラストの話 (上)

SSPC(橋造物保護コーティング協会)の年次総会が今年2月、米フロリダ州オーランド開かれた。2015年の総会から5年続けて参加した池田工業北海道北斗市の池田龍哉社長が、視察報告の第2回が寄せられた(第1回は本紙4月1日号に掲載)。



池田社長

行った「鋼橋上の塩化物を浄化するための表面処理法」の報告と、大方は有害物質関係の処理に伴う粉じんの抑制に関するところが多い。

SSPCで継続的に技術発表されているテーマで、表面処理(Surface Preparation)の塩化などの品質の観点から、湿式工法についての評価が興味深い。

期待耐用年数を満たさない塗装

SSPC2017年タ...
ンパから継続発表されて...
いるシタッキー州交通...
セーター(KYTC)が...

塗料塗装の性能を十分に発揮させるため、残留塩化物を低減または排除し、塩化物汚染のない、または非常に少ない塗料塗装を提供するために、新しい表面処理方法を特定しなければならぬ。

塩分浄化のベスト工法は?

塩化物汚染されたスチールパネル(塩化物汚染平均約5000ppm)から、どのくらい効果的に塩化物を除去できるか。

この塩化物は新しい塗装がされた後に腐食が起るホットスポットを作り出し、塗装の耐用年数を減少させる。

この塩化物は新しい塗装がされた後に腐食が起るホットスポットを作り出し、塗装の耐用年数を減少させる。

横浜橋はなかったが 地下鉄駅に「橋の詩」 橋名板をレリーフに

横浜市南区の「横浜橋」通商街から、「横浜橋」もなかったが、地下鉄駅に「橋の詩」橋名板をレリーフに



湿式プラスト

削材のサイズ、および複数回の再プラスト処理の組み合わせ。湿式工法は水圧・水・研削材の混合剤の組み合わせで行われていた。

この32種類の表面処理方法の選択は容易で、今行われている表面処理のプロセスで除塩程度を同一条件で確認している。

乾式工法のみで除塩は困難

考えさせられたのが乾式プラスト工法である。ほとんどの乾式表面処理法では表面処理後の残留塩分が大幅に増えた点と研削材の種類・粒度は除塩に影響を及ぼさないこととの2点である。

32種類のうち最も残留塩分が多かった表面処理工法はスチールグリットによる乾式プラストの1回処理によるもので、残留塩分は6・5%であった。

しかし、1回繰り返してSOSSA17のグレードで再プラスト仕上げを行ってやると残留塩分が6%の運用及び経済的に非常に難しいと感じた。

高田機工 高橋氏が社長に

新社長に高橋氏

建設コンクリート協会

建設コンクリート協会

建設コンクリート協会

建設コンクリート協会

高田機工 高橋氏が社長に

新社長に高橋氏

建設コンクリート協会

建設コンクリート協会

建設コンクリート協会

建設コンクリート協会